

テクニカル研究科 学科長・担任 早崎 賢治

「NFCを利用した認証システムの作成」というテーマは、ネットワークやセキュリティを中心に学習している本科にとって相応しいテーマでした。プレゼンに関しては開発者視点であったため難解な面もありましたが、関連技術を良く研究されていたと感じます。

NFCに関しては日本語の資料が少なく、海外のサイトや文献から情報を収集するなど苦労も多かったと思いますが、新しい技術に好奇心を持って取り組んでいく姿勢は、社会に出てからも必ず必要になります。今回の経験が皆さんの将来に生かされ、大きく飛躍してくれることを期待しています。

2年 ICT 情報システム学科・2年 ICT 情報デザイン学科 担任 鈴木 正章

今年度の卒業研究は、I S・I Dのそれぞれのメンバーが他科とのコラボレーションも含め、8チームに分かれての研究でした。研究テーマも例年に無いテーマに挑戦し、チーム人数も2人から8人までバラエティーに富んでいました。収穫は、一人ひとりが自分の役割をきちんとこなし、チームとして一つの作品を完成させる事が出来た事です。社会に出てからもこの経験は、大いに役に立ちます。自信を持って頑張ってください。

ICT情報システム学科 2年 朝倉 優佳

今回私達は、福祉アプリ「こころ・こねくと」というソフトを開発しました。介護の職員の方が介護記録を簡単に取ることができ、閲覧や記録の削除もできます。また、介護者の親族は、介護記録を閲覧することで体調などを確認出来ます。このソフトを作ることで施設の職員の方と介護者の親族の方々のコミュニケーションをより密接にしたいという思いがありました。私達グループは3人で、一人ひとりの作業量がとても多く、しっかりした物ができるか不安でした。自分が担当している部分でつまづくことも多かったのですが、班員や先生方にサポートして頂き、問題を乗り越えることが出来ました。

今回の卒業研究で学んだことは、意志疎通の難しさと、作業でつまづく時に周りに相談する事の大切さです。

この事をこれからの社会で活かし、立派な社会人になれるよう頑張ります。今回このような貴重な機会を与えて下さった先生方にはとても感謝しております。ありがとうございました。

ICT情報デザイン学科 2年 永井 雄太

今回私たちの班は、「学校CMの制作」を研究テーマにしました。今まで挑戦した事がない15秒間のCMということで、最初はCMの定義やルール等の調査や、実際に流れているCMを研究することから始めました。研究が進んでいくうちに、文字を入れていく範囲や使ってはいけない色等がわかるようになり、今まで知らなかった知識・技術を身につける事ができました。

今回の研究を通して最も良かった事は、素材等を作る技術と、デザイン性や動画等の編集によるエフェクト技術を磨くことが出来た事です。更に最大限に自分の力を出し切り、一つのCM作品を完成出来た事がとても良かったです。本当に良い経験となりました。この経験を、これからの社会人として仕事や生活に大いに役立てていきたいと思っています。

<福祉医療 卒業研究・ケアスタディー発表会>

○発表会御参加講師 (順不同)

- ・非常勤講師 大橋 孝雄 先生
- ・本学顧問・非常勤講師 神田 均先生
- ・障害者支援施設 富士本学園
佐野 雄平 様 (ボランティア担当職員・卒業生)
- 島寄 和泉 様、 芦沢 圭祐 様 (ボランティア担当職員)
- ・特養 羽衣の園
川福 晃司 様 (施設長)
- 市川 晃 様 (ボランティア担当)
- ・中央特別支援学校
秋本 啓子 副校長先生
- ・野宿者のための静岡パトロール
望月 武 様 (ボランティアスタッフ)
- ・千勝の森健康いきいき教室・民生委員
青島 安代 様、 後藤 恵子 様 (ボランティアスタッフ)

○ご出席頂いた講師の方々からのコメント [一部抜粋]

- ・このような患者負担とその減免制度があるとは知らなかったが、これらの制度も患者さんに伝わってこそ意味がある。
- ・今後急増する認知症の高齢者対策として地域や施設で何が必要か、皆さんのような若い方々が、この課題に対する解答を見出して欲しい
- ・年代、分野を越えた地域での活動を今後も一緒にやっていきたい
- ・福祉・介護分野の将来を担う若者がホームレス支援活動に関わり、今後の福祉・介護のあり方を考えることは大変意味深い
- ・試行錯誤しながらの活動が、利用者や地域の方々を巻き込み、徐々に形になってきている
- ・報告の形態も体裁が整ってきており、内容のレベルも全体的に向上している
- ・集大成の卒業研究発表会にふさわしく、高齢者、障害者、保育、医療と、幅広い分野かつ年代を越えた活動など、大変有意義な報告だった

○発表テーマと学生メンバー

- (1) 『患者負担の軽減』
伊藤 彩香、伊藤 由貴、後藤 晴香、塩澤 友美、清 愛美、高橋 奈々、渡邊 愛理 (医療情報秘書科2年)
- (2) 『思い込みからなる価値観の違い』～「なぜ」から始める介護～
田畑 歩、後藤 知央 (介護福祉学科2年)
- (3) 『未知なるニーズ』～ユニットケアを活かした支援を通して～
舩越 建太、寺島 圭亮 (総合福祉学科2年)
- (4) 『障害者就労継続支援事業とは』～「ラポール・タスカベンチタイム」
「ラポール・タスカ ぽけっと」での活動から～
金子 綾菜、加茂川 仁美、井口 茜 (子ども心理学科3年)

- (5) 『夜間託児所の子ども達へ』～メンタルケアに繋がる絵本作り～
長田 真実 (子ども心理学科3年)
- (6) 『障がいの理解を伝えること』～ボランティア養成講座に参加して～
池谷 友里、水谷 美樹 (総合福祉学科3年)
- (7) 『松原地域のコミュニティづくり』～学老所わっぱでの活動を通して～
小塚 真沙美、鈴木 美哉、関 まどか、望月 祥子
- (8) 『千勝の森の活動を通じて』～地域による地域のための活動～
戸塚 祐介、八木 和真 (総合福祉学科3年)
- (9) 『ホームレス支援を通して』～生活保護裁判から見られる問題～
島本 直幸、實石 郁也、福重 龍之介、八木 和真 (総合福祉学科3年)
- (10) 『クリーンフロントライン』～交流を通しての啓発活動に参加してみても～
川内野 孝佳、齋藤 聖人、竹嶋 克記、中村 智子 (総合福祉学科3年)

総合福祉学科長 磯野 博

今年度も学園祭・文化祭の最初の企画として、福祉医療の卒業研究・ケアスタディー発表会が、2月21日(金)の午前、森下町キャンパス8階マルチメディアホールにおいて開催された。各学科の代表者による多彩な報告もさることながら、全学科の学生が協力して準備をしてきており、企画・運営のきめ細かさも際立っていたと思われる。

わざわざ報告を聞きにきてくださった講師の先生方、施設の方々、そして卒業生、地域のボランティアスタッフの方々からもいろいろなコメントを頂戴し、今後もこれらの研究・活動などを後輩に引き継いでいって欲しい旨が伝えられた。後方で聞いていた後輩たちも、「次は自分たち」という思いを新たにしたのであろう。

来年度も「地域に開かれた専門学校」という名声をより高めていけるよう、学生、教員が一体なってこれらの研究・活動を繰り返していきたい。

介護福祉学科長 三嶋 秀子

介護福祉学科と総合福祉学科の2年生によるケアスタディ発表会が2月18日(火)と19日(水)で開催されました。

第3期・第4期実習で受け持たせていただいた利用者様に対して、どのような介護を施したのか見つけ直し、そこから学べたものを発表します。見つけ直すといってもその過程は容易ではありません。コミュニケーションの回り方や関係の築き方、情報の取り方、アセスメント、介護の実践、そして考察・・・自分の関わり方はこれでよかったのか、もっとよい方法があったのではないかと、利用者様の本当のニーズはなんだったのだろうかなどとあれこれ考えを巡らせ、文献をみたりしながら原稿に向います。そうしてクラス皆で作あげたのがケアスタディ集です。また、そのまとめる過程で、自分の介護観も見えてきます。これからこんな介護福祉士になりたい。こんな仕事ができるプロになりたい・・・と。それらの思いを込めて、発表会当日は懸命にプレゼンテーションしました。

発表会を開催するまでには、チームで動くということも学びました。多くの涙もみられました。その苦しさを乗り越えてできた発表会です。自分の力にできたその学びはきっと花開くことでしょう。2年生の皆さんのこれからに期待しております。

子ども心理学科長 後藤 明子

卒業研究発表会に取り組むにあたり、本学科らしさを出していきたいと考えていました。学生には、3年間の集大成として、自らが知りたいことにアンテナを立て、学外の活動に出向き、知り得たこと、学んだことを情報発信するように指導しました。保育・幼児教育の分野は、非常に多岐に渡っています。保育では、0歳から18歳の子どもの発達支援、生活支援、障害支援、社会的養護に対する支援が必要な子どももいます。また、幼児教育では、幼児期の成長を教育を通して伸ばしていくスキルが求められます。これらのことを学習し、習得してきた子ども心理学科にとって、卒業研究発表会が最後の学びの場としてふさわしい場となったように感じます。貴重な機会をいただきまして、ありがとうございました。

医療情報秘書科 2年担任 畔上 泉

卒業研究発表会では、学生たちが中村学園で学んだ集大成を見ることができました。各グループの発表は、今まで学習してきたことをさらに深く理解するきっかけになったことでしょう。そして、今回の発表を終えて、学生たちが人間的に成長した姿を見ることもできました。グループワークを通して、他の人と協力して一つの目標に取り組む姿勢や問題を解決する能力が身についたはずですね。このように成長した学生が、それぞれの職場で、本校の卒業生としての自信と誇りを胸に活躍してくれることを期待しています。

介護福祉学科 2年 笠間 慎

第三期実習で初めて一人の利用者様を受け持たせて頂き、深く関わることが出来ました。ケアスタ発表のために、第三期実習を振り返り、実習中は利用者様の情報や、ケアプランの立案・実施のことばかりに気を取られてしまい、利用者様の思っていること、考えていることまで目が行き届いていなかったと感じました。利用者様の気持ちも汲み取らなければいけないとわかってはいたのですが、余裕がなく自分の考えでケアプランを立案・実施をしてしまいました。ケアプランを実施しているとき、利用者様はどう思っていたのか、私一人が満足し実施していたのではないかなど、様々なことを考えさせられ、利用者様への対応について、反省する日々でした。高齢者だからといって特別扱いせず、身体のことばかりに気を取られるのではなく一人一人の気持ちをしっかりと理解し、その人に合った最善のケアを行わなくてはならないと改めて感じました。現場で働くようになってからも、振り返りを行い自分自身の成長につなげていきたいです。

子ども心理学科 3年 白川 翔太

私達は、この卒業研究に取り組むにあたり、3年間の集大成となるような活動になるよう、各自が何を経験し、学んでいきたいのか検討をすることから始めました。そこで、専門学校の近隣地域で行われている福祉活動の中から、小学生の放課後の居場所を知ることを活動の中心に据えました。この活動を通して、広い視野で保育・教育を捉えられるのではないかと感じたからです。きっかけは、静岡市社会福祉協議会から出されている、ボランティア情報誌でした。活動内容は、子ども達にボランティアが勉強を教えるといったもので、それまで、このような活動があることを知りませんでした。しかし、活動を重ねると、小学生に勉強を教えることだけではなく、子どもの放課後の居場所をどのように大人達が作っていきけるのかということを地域で考えていくもので、これからもっと多くの地域で必要なサポートであることを実感しました。この活動が、もっと多くの方に知られ、子どもの安全な生活環境が作られていくと、子どもにとって住みやすい地域が作られるということを学ぶことが出来ました。

◆平成25年度公開講座 ～両校の学生がともに学んだ公開講座～

総合福祉学科学科長 磯野 博

今年度の公開講座は、(株)アメディアの社長である望月優様にご講演いただいた。

望月様は、静岡市ご出身であり、全盲の視覚障がい者である。「全世界からすべての障がいをなくす！」をモットーにしており、障がいを克服する機器の開発・販売を行うアメディアを起業した。そのため、福祉医療、電子情報、両校の学生がそれぞれの専門分野を活かし、両校のコラボレーションのなかから新たな可能性を見出す「福祉・介護とICTのコラボレーションを目指して」という今回の公開講座の講師として最適であった。

今回の公開講座は、学生がいろいろな機器を直接試す体験型になっており、公開講座中盤では、望月様と学生、教員が入り混じり、楽しみながら機器の体験ができた。両校の学生には大きな刺激になったことであろう。

公開講座の後半では、望月様の仕事観などについてお話があった。仕事観では、「あなたは仕事で人々に幸せを提供することができる」、「私たちの幸福がどんなに多くの人々の仕事によって支えられているのかを考えてみる」というお話があった。これは、「仕事とは、一生涯自己実現を目指してすすむための手段」、「I was born keep alive.」という亡き学園長先生の訓示とも繋がるものがあり、専門学校と職業教育の意味を学生、教職員一同、改めてかみ締める良い機会になった。

今回の出会いを大切に、望月様には、今後とも両校の学生に大きな示唆をお与えいただくことを切望して止まない。

◆「平成25年度 電子情報卒業生を囲む会」

進路指導の一環として実施している「卒業生を囲む会」に、今年も後輩たちのため、3名の卒業生が来校され、社会で活躍されている様子を学生に語っていただきました。

☆日時・会場

平成25年3月1日(土)10:00～12:00 2号館8階マルチメディアホール

☆参加卒業生

- ・保坂 昇秀：モノリズム合同会社 会社代表
13期卒業生(ゲームエンターテイメント科)
- ・内田 和将：静岡県立総合病院電算室常駐 医療系SE
12期卒業生(情報通信システム科)
- ・勝又 勇輝：株式会社シャイニング 代表取締役
20期卒業生(情報通信システム科)

保坂さんは、15年のゲームプログラマー・プロジェクトマネージャーの経験から、「世の中を知らない」と発想はできないし、いろいろなことを知ることで、発想の確率が上がる。日々、常に考えることが大切で、そのことがゲームのアイデアのひらめきにつながる、「マリオ以上のゲームを創ることが、夢」と語ってくれました。

内田さんは、転職、転職先の倒産など数多くの経験をされ、10年ほど前に、病院の仕事に出会い、人の役に立つ「エンドユーザーが満足できるシステムの提供」がやりがいとなり、現場でなくてはならない存在として、活躍されていました。

ネットショップを運営する会社を起業された勝又さんは、「企画したことがすぐに実行できるのが楽しい。」「従業員たちに、働きやすい、良い会社と思わせるようにしたい。私の仕事は、それを目指すことだと思っている。」と話してくれました。

そして、在校生からの多くの質問に対し、ていねいに、自らの経験を自らの言葉で語っていただき、学生生活への

アドバイスをしていただきました。

最後に校長先生から、「今を全力で生きられないと先は無い。在校生も、キャリアデザインを考えて、それぞれの職場で仕事を通して自己実現を図られている先輩を見習い、追い越して欲しい。」とのお話を頂きました。

